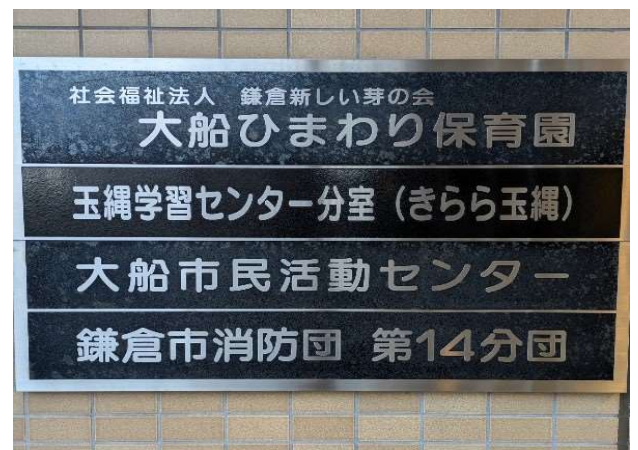


⑫大船ひまわり保育園1971(S46)～

成立ち 1964年の母親大会から始まった「ポストの数ほど保育所を」の声は、親、保育者、地域、保育にかかわる研究者も巻き込み「保育運動」へと向かっていった。北鎌倉、大船地区でも、60年代末からこの地域の母親7, 8人が集まり保育園設置を求め活動を始めていた。母親たちが働き続けるためには、子ども達を安全に預けられる場所が必要不可欠と、地域の理解を得ながら行政に働きかけた。71年、園児7人保母6人で大船のアパートの部屋を借り、乳幼児も預けられる保育所「大船第一共同保育所」(大船2002)を作り上げた。この運動は72年の市立大船保育園設立へと波及した。

共同保育所 保護者と保育者が共同で運営委員会を作り、保護者が運営委員長となり、運営方針や要望、行事など様々な話し合いのもと、共に運営に関わった。

98年、認可保育園を目指し社会福祉法人「かまくら新しい芽の会」を立ち上げた。この年玉縄学習センター分室(台1-2-25)に移転、



認可施設「大船ひまわり保育園」と名称を変えた。

保育理念 「共同」の精神を受け継ぎ、保護者が願う就労の権利を保障し、安心して預けられ、子どもたちの笑顔が輝き、職員が生き生きとして働ける保育園を目指す。児童憲章にのっとり、児童の最善の利益の実現を目指し、地域の子育て支援にも取り組んでいる。

保育方針 産休明けから就学期までの一貫した集団保育を通し、乳幼児の全面発達を目指している。働く父母の就労保障のできる延長保育を実施している。

保育目標 生き生きと意欲的に遊ぶ元気な子ども、豊かな感性や創造性を伸ばし、自分の思いや考えを話し合える子ども、人や物を大切にする子を目指している。

共同の精神 保護者・保育者・地域の人々の共同で作りに上げられたことを生かした運営を、今後も行っていく。



屋上の遊具



園内で作る給食